取組事例３（茨城県）牛久市教育委員会

ビジョンの共有 ／ CS運営の差 ／ 当事者意識の向上

牛久市の概要

※1

人口	児童生徒数	学校数	地域学校協働活動推進員数
82,073人	6,367人	小7・中5・義1	38人（25人※2 ）

※１ R6時点 ※2 学校運営協議会委員数

牛久市の悩み・困りとその解決策

① 学校と地域が目標を共有することが難しい…

どうすれば学校と地域が目標を共有できるのか

- 校長の説明や学校便りを通して目標の共有を図っても，CS委員になかなか理解してもらえない。（伝わらない）

- 結局、何をどうすればいいの？
- イメージがわかないんだけど･･･
- 頼まれたら草刈りをすればいいの？

CS委員

② CSに対する委員の理解やCS運営に差がある…

- CSの意義や役割について、新規委員と長年携わっている委員とで理解度に差がある。（毎年1/3は新規の委員）

- 会議では単発的な協議になりがち･･･
- せっかくの学校評価が生かされていない･･･
- 課題が次年度に生かされていない･･･

① CS委員が授業参観や事後の振り返りに参加

ＣＳ委員が教職員と共に授業を参観し、事後研では教職員と子どもの学びの姿について語り合う

- 地域の方々が授業を参観することに、初めは先生たちの抵抗感もありましたが、徐々に解消し、今では地域の方が授業に入ることのよさを実感できています。

市教委の声

- 事後研では、子どもの学びの姿を中心に議論されており、子どもを見とる大切さを理解できました。
- 子どもたちの学校での様子がよく分かり、安心しました。

CS委員の声

- 子どもの姿が見える
- 学校の今が分かる
- 学校、先生、子どもの困りが分かる

② 市教育委員会による継続的な伴走支援

全ての学校運営協議会で市教委が行政説明を実施

- 市教委がＣＳの意義や役割を説明し共通理解を図るとともに、昨年度までの取組について紹介しＣＳの目的を共有する。

ＣＳ運営の学校間の差をなくす取組

- CS運営に関するアンケートや、PDCAサイクルを意識した報告書の作成、CS代表者交流会などを実施。

学校理解の深まりや当事者意識の向上により自立した学校運営協議会※が実現

- 学校運営協議会の中に事務局を立ち上げ、会議の運営や各種活動の企画・実施、情報発信等を担う。

- 学校のために，子どもたちのために何ができるだろうか。

学校課題の解決に向けた委員の人選

当事者意識をもった委員による協議が実現

※詳細は「取組事例４（牛久市立ひたち野うしく中学校）」に掲載